中国の青年の結婚観・子育て観に関する調査研究

祖父母世代との共同子育て

○石野陽子¹・高 健²(非会員)

(¹島根大学教育学部・²天津中医薬大学)

キーワード: 青年期、子育て観、中国

Yoko ISHINO¹ and Jian GAO^{2, #}

(¹Shimane University, ²Tianjin University of Traditional Chinese Medicine)

Key words: adolescent, the sense of child-rearing, China

目 的

少産を施策で誘導し少子化社会になった中国と、様々な子育て支援施策が整いつつあるにもかかわらず少子化が続く日本において、両国の青年達・若い既婚者達は、結婚や子育て、家族、そしてそれらを取り巻く制度などをどのように考え、家族を巡る諸問題へどのように取り組んでいるのであろうか。特に、このような少子化傾向が子育てにどのような影響を与えるのかを精査するため、これまで様々な日中比較研究が行なわれている(例えば、依田, 1997; 岡本, 2002; 姜, 2002)。

そこで一人っ子政策開始後の日本と中国の青年における結婚観・子育て観を調査するために、日本の大学生に結婚観や子育て観について調査した(石野・清水, 2009)。結果の中でも結婚観についてまとめると、結婚には心理的作用があることと自分や家族に責任が生じるという印象が強い様子であった。3/4 程度の者が結婚したいと考えており、その理由としては先に挙げた心理的作用や家庭を築くことに希望をもっているためであった。しかし、結婚に至る条件として、経済的自立ができたのちでないと難しいと考えている者も全体の1/4 見られた。また、義務感や固定観念、周囲からの期待から結婚しなければならないと答えている者も少数存在した。

本研究では、一人っ子政策開始以前に生まれた青年期の男女はどのような結婚観をもっているのか、また、現在中国で取りざたされている祖父母世代と共同して子育てをしていることについて調査するための予備的研究として自由記述による回答を求め、それらについて検討する。

方 法

調査時期: 配布・回収は、2009 年 10 月に行なわれた。調査方法: 質問紙法を用いた。大学の授業中に質問紙を配布し、後日回答を求め回収した。回答用紙提出の期限は一週間であった。有効調査率は 100%であった。調査対象者: 大学生 118 名が参加した。このうち男性は 34 名、女性は 84 名であった。平均年齢は 20.28 歳(年齢範囲 18-24 歳)であった。質問項目: 調査に用いられた質問項目は、次の 7 項目から構成され、自由記述によって回答を求めた。

1. 結婚そのものについての考え、2. 結婚したいと思うかとその理由、3. 子どもや子育てそのものについての考えと自身が子どもをもつことへの関心とその理由 4. 子どもがいたとすれば、どのような子育てをしたいか、5. 祖父母世代に子育てを手伝ってもらっていることに関する考え

結 果 と 考 察

1. 結婚そのものについての考えは(1)男女の契約、権利・義務、(2)生活を共にすること、という意見が多く、2 人の関係に関する記述が多かった。中国の青年の特徴としては、社会の発展のため、法律で社会・集団を形成すること、子どもを養育すること、など、社会の維持や発展に言及している者も多数みられた。愛情の墓(人生の墓場という意味に近い

ように考えられる)という記述も散見された。2. 結婚したいと思うかとその理由については、したいと答えた者が 42.37%、今はできないがいつか時期が来ればしたいと答えた者が 9.32%、したくないと答えた者が 48.31%であった。結婚したい(あるいは、したくない)理由については、(1)心理的作用があるから、(2)自由が奪われ煩わしいから、(3)若いから、(4)精神的に未成熟だから、(5)経済的に安定していないから、というように、日本の青年より(石野・清水, 2009)も結婚についての希望を語る上でも慎重で、状況を見据えた上での回答が散見された。3. 子どもや子育てそのものについての考えと自身が子どもをもつことへの関心とその理由、については、(1)かわいい・好きなので関心がある、(2)責任が重い、(3)経済的負担が大きい、(4)社会の維持や発展には必要、という順で上がり、日本の意見でも多く見られた子どもへの関心は共通してみられたが、子育ての責任の重さをあげ、それに自分がまだ見合っていないことに触れる物が多くいた。社会の維持についての意見は非常に特徴的であった。4. 子どもがいたとすれば、どのような子育てをしたいかについては、(1)自分が自由に育てたい、(2)優良な子育てがしたい、(3)西洋式の子育てを行ないたい、ということであった。5. 祖父母世代に子育てを手伝ってもらっていることに関する考えは、(1)父母世代は忙しいので手伝うことは当たり前、(2)自分たちとは子育てへの方針が異なるので、自分は手伝って欲しくないという意見で二分されていた。

○本研究は、平成 20-22 年度文部科学省科学研究費補助金「少子化社会のなかでの日本と中国の青年・若年父母の結婚観・子育て観に関する調査研究」(研究代表者: 石野陽子, 課題番号 20730430)を受けて行なわれた。

引用文献

- 石野陽子・清水寛之(2009). 青年の結婚観・子育て観に関する調査研究 日本発達心理学会第 20 回大会発表論文集, (Ishino, Y., & Shimizu, H.)
- 姜 波・佐々木正美・八重樫牧子・徐 祖瓊・石川瞭子(2002). 岡山・上海・大連における子育てに関する比較考察 川崎医療福祉学会誌 12, 197-208.
- (Jinag, B., Sasaki, M., Yaegashi, M., Xu, Z. Q., & Ishikawa, R.(2002). Comparative Study on Child-Raising in Okayama, Shanghai and Dalian. Kawasaki medical welfare journal, 12, 197-208.)
- 岡本祐子(2002). 成人女性のアイデンティティおよび子育て意識に関する日中比較研究 日本家政学会誌 53, 193-198.
- (OKAMOTO, Y.(2002). A Comparative Study on the Sense of Identity and Child-Rearing between Japanese and Chinese Women in Adulthood. Journal of home economics of Japan, 53, 193-198.)
- 依田 明(編著)(1997). 少子時代の子どもたち ブレーン出版